

令和2年度 京都市立四条中学校 学校教育目標・経営方針

□学校教育目標

人と関わり、協働して課題を解決できる力の育成

◇目指す子ども像

- ・自分の考えを持って他者と対話し、他者の考え方と比較、吟味することでより良い考え方を見つける子ども。
(思考力)
- ・言語や数量及び情報などを用いて世界を理解し、自分の考え方を表現できる子ども。
(表現力)
- ・社会や環境の中に課題を見出し、多様な他者と関係を築きながら課題を解決できる子ども。
(実践力)

◇目指す教職員像

- ・優しさと厳しさを兼ね備えた力量のある教職員。
- ・同じ方向を向いた教育活動を実践する教職員。
- ・子どもの言動や行動の背景に目を向け、子どもと心の通った教職員。

◇目指す学校像

- ・日々の教育活動を通じて、生徒一人一人の規範意識が身に付く学校。
- ・落ち着いた教育環境で、生徒が主体的に学び、学力が向上する学校。
- ・生徒会活動・部活動・行事などが活性化し、生徒一人一人が成就感を味わえる学校。

□学校経営方針

◇重点目標

生徒指導の3機能を活かし、主体的、対話的で深い学びを実践し、生徒指導と学習指導をつなぐ教育活動をおこなう。

	教育活動	生徒指導の3機能
主体的な学び	課題設定 自ら課題を見つけて追及し、自ら考え、判断し、表現することができる	自己決定の場を与える
対話的な学び	協働活動 教職員と子どもがお互いに認め合い、学び合えることができる	共感の人間関係を育てる
深い学び	振り返り活動 子ども一人一人が学ぶ楽しさや成就感を味わうことができる	自己存在感を与える

□研究・学習指導

◇重点目標

「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けての実践

◇具体的な取組

- ・新学習指導要領に向けて授業改善を行い、一人年1回の研究授業の実施。
- ・充実した教科会及び教科主任会を通じて、有意義なOJTによる同僚性の構築。
- ・テスト問題の改善と指導および評価の一体化。
- ・授業の振り返りを家庭学習と位置づけた自学自習の推奨
- ・図書館を活用した授業実践。
- ・「特別の教科 道徳」の指導と評価の検証。

□生徒指導・支援

◇重点目標

生徒が自ら考え行動できる自己指導力の育成

◇具体的な取組

- ・生徒会が主体的に企画運営する全校集会の実施。（四条の日やいい言葉の日）
- ・非行防止教室やケータイ教室を通した、情報モラル学習の実施。
- ・こころやからだを大切にする感性を育む健康教育（薬物乱用防止教育や性教育）の実施。
- ・災害遭遇時に、自ら考え判断して適切な行動ができる力を育む安全教育の実施。
- ・SSWを有効活用したケースカンファレンスの実施と関係機関との有機的な連携。
- ・母子生活支援施設との定期的なコンサルテーションの実施。
- ・合理的配慮に基づく支援策のスキルを上げる教職員研修の充実

□小中一貫教育

◇9年間の教育目標

「夢をもち、共にまなび、たくましく社会を生き抜く子の育成」
～聴く力をつけ、互いに認め合い、自分で考え、本当の力につける～

◇目指す子ども像

- | | |
|-------------------|---------------|
| ・人とともに社会を生きる力を持つ子 | ・自分を知り、自立する子 |
| ・課題を見つけ、解決する子 | ・夢や希望をつくりあげる子 |

◇具体的な取組

- ・ジョイントプログラム・学習確認プログラム等の分析による基礎基本の学力の定着。
- ・LD等の要支援生徒について、細やかな連携による9年間のスムーズな教育実践。
- ・母子生活支援施設に入所している子どもへの理解を通して、小中学校のすべての子どもの背景に目を向けた教育活動の実践。
- ・小中合同研修会で各校の取組について情報交換を行い、理解を深めるとともに、共通の課題について認識し、課題解決に向けての取り組みを考察する。